

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 宮の原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 209人

② 数学 209人

③ 理科 209人

5 留意事項

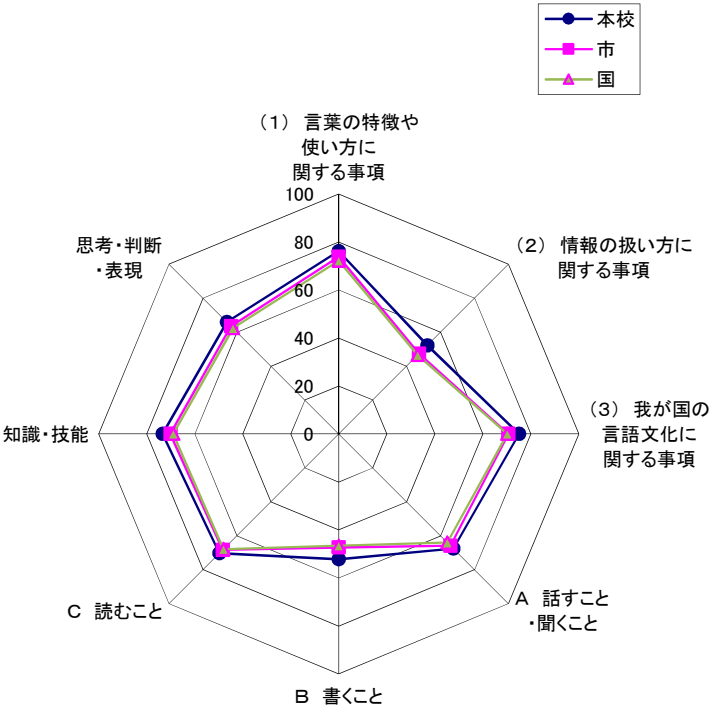
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宮の原中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	76.2	73.8	72.2
	(2) 情報の扱いに関する事項	52.2	47.3	46.5
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	75.1	70.7	70.2
	A 話すこと・聞くこと	67.5	65.9	63.9
	B 書くこと	52.2	47.3	46.5
	C 読むこと	70.3	68.3	67.9
観点	知識・技能	73.4	70.2	69.0
	思考・判断・表現	65.9	63.6	62.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

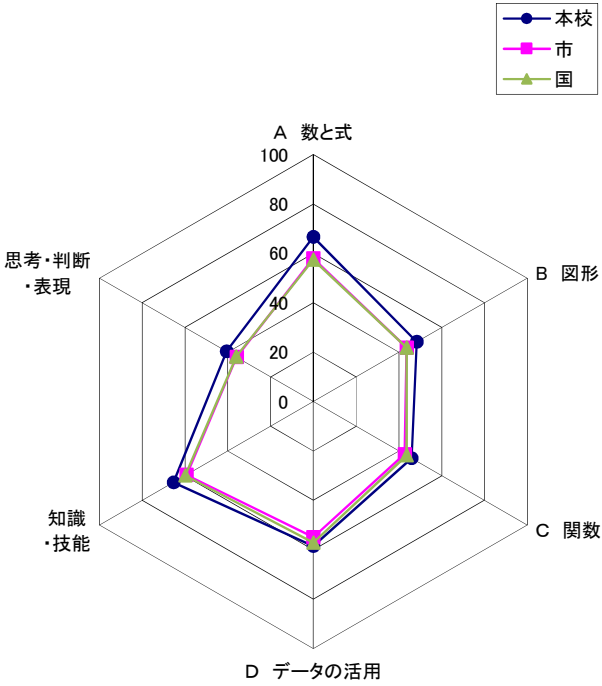
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や 使いに関する事項	○文脈に即して漢字を正しく書く問題では、県と全国の平均を上回り、8割以上の正答率となっている。 ●表現の技法について理解しているかを問う問題では、正答率が県の平均を6ポイント以上、全国の平均を8ポイント近く上回っているが、6割程度の正答率となっている。	・今後も漢字練習やミニテストを継続していく。 ・俳句や詩の単元の中だけでなく、他の単元の中でも文章中に使われている表現技法等に触れる機会を定期的に作り、確認していく。
(2) 情報の扱い方に 関する事項	●県と全国の平均を5ポイント近く上回っているが、5割程度の正答率となっている。 ●引用する文に付けるべき「」を書かずに不正解となっている生徒が4割近くいる。	・資料から必要な情報を引用して、文章を書く問題には、慣れていないので、様々な形式の問題に触れさせていく。 ・文の引用の仕方について授業の中で取り扱う機会を作り、意識付けを図る。
(3) 我が国の言語文化に 関する事項	○漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解しているかを問う問題では、県と全国の平均を6ポイント上回っている。 ●行書の特徴を理解できているかを問う問題では、県と全国の平均を上回っているが、正答率が5割を切っている。	・書写の中で筆順の変化や形の変化等、楷書から行書への変化により焦点を当てて指導し、行書の特徴について詳しく確認していく。
A 話すこと・聞くこと	○論理の展開などに注意して聞く問題では、県と全国の平均を5ポイント以上上回っている。 ●自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す問題では、県と全国の平均を上回っているが、5割程度の正答率となっている。	・授業の中で、話し合い活動を増やすなど、自分の考えを表現する機会を確保する。 ・よりよい表現を目指す癖をつけられるように、授業の中で、自分の表現を推敲する時間を取るようになる。
B 書くこと	○無回答率が6.2%となっており、県と全国平均に比べて低くなっている。 ●自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書く問題では、正答率が5割程度となっている。	・無回答率が低くなっており、粘り強く書く問題に取り組む態度が見られる。今後、より伸ばしていくために、一人一人が文章を書く時間を確保していく。 ・根拠を明確に表現できるように、発問を工夫する。
C 読むこと	○場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える問題では、全国の平均を4ポイント、県の平均を5ポイント以上上回っている。 ●場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する問題では、県、全国の平均とあまり変わらない正答率である。	・場面に区切って文章を読んでだけでなく、場面と場面の関係により焦点を当てて、授業を進めていく。 ・場面と場面、場面と描写などの関係性を捉える活動を取り入れていく。

宇都宮市立宮の原中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	66.6	58.0	57.4
	B 図形	48.3	43.6	43.6
	C 関数	45.9	42.7	43.6
	D データの活用	58.5	54.9	57.1
観点	知識・技能	65.4	59.3	59.9
	思考・判断・表現	40.6	35.9	36.2
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

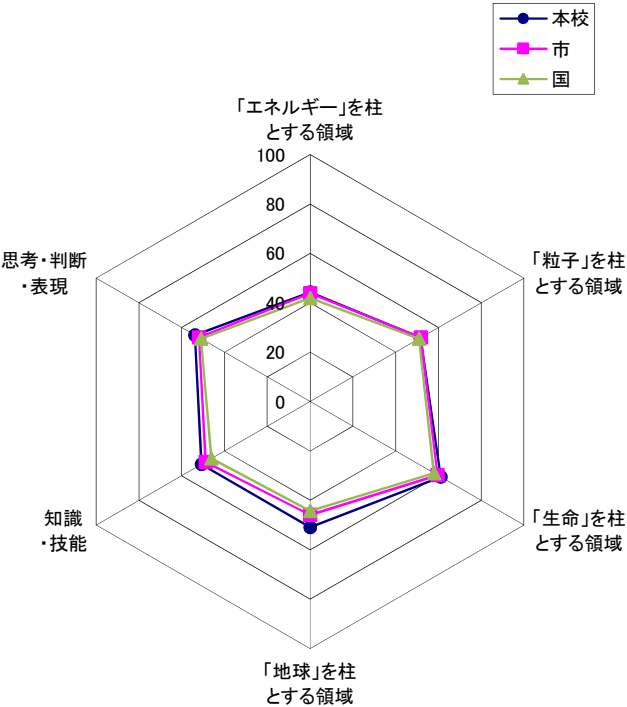
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	○数と式の区分の正答率は、市や全国の正答率を8ポイント以上、上回っている。特に、42を素因数分解する問題に対する正答率は、市や全国の正答率を20ポイント以上、上回っている。 ●選択式問題や短答式問題の正答率と比較すると、記述式問題のある偶数との輪が4の倍数になる数について、予想した事柄を表現する問題の正答率が低かった。	・今後も基本的な計算力を高めるために、既習の計算問題を取り入れたプリントを活用し、授業内外で反復練習を行っていく。 ・数量の関係を的確にとらえ、等式で表す活動を重視していく。また、逆に式から、数量の関係を文章で表す活動も取り入れていく。
B 図形	○数と式の区分の正答率は、市や全国の正答率ともに4.7ポイント上回っている。特に、証明で用いられる三角形の合同条件を書く問題に対する正答率は、市や全国の正答率を6.2ポイント以上、上回っている。 ●選択式問題や短答式問題の正答率と比較すると、記述式問題「 $\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和が 30° になる理由を示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることの説明を完成させる問題」の正答率が低い。	・今後も図形に関する基本的な知識・理解を高める指導に重点を置きながら授業を展開していくとともに、授業内外で既習事項を含めた反復練習を行っていく。 ・三角形の合同証明は触れる経験が多く、証明できる生徒が多いが、それ以外の問題で筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することが苦手なため、このような問題を多く解かせたり、必要な文章を穴埋めなどで考えさせていきたい。
C 関数	○関数の区分の正答率は、市や全国の正答率を2ポイント以上、上回っている。特に、与えられたグラフにおいて、点Eの座標を書く問題に対する正答率は、市や全国の正答率を5.7ポイント上回っている。 ●変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ問題では、全国の正答率を2.5ポイント下回っている。	・今後も関数に関する基本的な知識・理解を高める指導に重点を置きながら授業を展開していくとともに、授業内外で既習事項を含めた反復練習を行っていく。 ・具体的な関数を取り上げ、表やグラフの特徴を捉えることで、比例や反比例、一次関数の関係について理解を深めさせていく。
D データの活用	○資料の活用の区分の正答率は、市や全国の正答率を1.4ポイント以上、上回っている。特に、容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ問題に対する正答率は、市や全国の正答率を5.2ポイント以上、上回っている。 ●箱ひげ図の箱が示す区間に含まれているデータの個数と散らばりのていどについて正しく述べたものを選ぶ問題では全国の正答率を0.1ポイント下回っている。	・授業中の数学的活動において、適切な知識と必要性を理解させながら指導していきたい。また、1・2年生で学んだ既習事項を振り返る機会を設け、理解が深められるようにしていく。

宇都宮市立宮の原中学校第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	44.3	43.8	41.9
	「粒子」を柱とする領域	51.6	51.8	50.9
	「生命」を柱とする領域	61.1	59.6	57.9
	「地球」を柱とする領域	50.9	45.9	44.3
観点	知識・技能	50.8	48.8	46.1
	思考・判断・表現	53.8	51.9	51.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	○エネルギーの領域では、市の平均を0.5ポイント、全国の平均を2.4ポイント上回っている。特に、「ばねが縮む長さは、加える力の大きさに比例するか」という課題に正対した考察を行うために、適切に処理されたグラフを選択する問題では、市や全国の平均を6ポイント以上大きく上回っている。 ●モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を選択する問題では、正答率が低くなっている。	・粒子の領域に関する問題正答率が他の領域の問題正答率と比較して全体的に低いため、これまでの既習事項を振り返り、知識・技能だけでなく、それを活用できるようにする。 ・実験結果を誤差を踏まえながらグラフに表すことで、データの処理の仕方を確認する。また、データを処理するときは、自分のデータ以外も用いて行うようにする。 ・実験のやり方を教師側で提示することが多いので、実験の方法を生徒に考えさせたり、2つの実験方法を示し、どちらが適切かを理由を含めて考えさせるような授業展開をしていく。
「粒子」を柱とする領域	○粒子の領域では、全国の平均を0.7ポイント上回っている。水素を燃料として使うしくみの例の水の質量の変化について、適切なものを選択する問題では、市や全国の平均を4ポイント以上、上回っている。 ●粒子の領域では、市の平均を0.2ポイント下回っている。実験の結果が根拠として十分かどうか検討し、必要な実験を計画できる問題の正答率が低くなっている。	・実験のやり方を教師側で提示することが多いので、実験の方法を生徒に考えさせたり、2つの実験方法を示し、どちらが適切かを理由を含めて考えさせるような授業展開をしていく。 ・見通しをもった観察、実験を行っていきたい。観察、実験を行うときに、生徒に何のために実験を行うのか、どんなことが予想されるのかなど、しっかり考えさせたい。
「生命」を柱とする領域	○生命の領域では、市の平均を1.5ポイント、全国の平均を3.2ポイント上回っている。特に、節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて体のつくりと働きを解釈する問題では、市や全国の平均を上回っている。 ●複数の脊椎動物の外部形態の考察を行う場面において、あしの骨格について共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、共通点と相違点を分析して解釈できるかどうかを問う問題では、市や全国の平均を下回っている。	・今後も生命に関する基本的な知識・技能を高める指導に重点を置きながら授業を行うとともに、授業内外で既習事項を含めた反復練習を行っていく。 ・語句などはしっかり押さえられているが、理科の見方・考え方を使うことはあまりできていない。教師側が、授業のどこで、どの見方・考え方をはたらかせるかをプランニングした、授業づくりを行う必要がある。
「地球」を柱とする領域	○生命の領域では、市の平均を1.5ポイント、全国の平均を3.2ポイント上回っている。特に玄武岩の露頭で化石の観察が可能かどうか、またその理由を問う問題の正答率は、市や全国を大きく上回っている。 ●気圧、気温、湿度の変化をグラフから読み取り、雲の種類の変化と関連付けて適切な問題を選択する問題では、市や全国の平均を下回っている。	・地球の領域に関する問題正答率が他の領域の問題正答率と比較して全体的に低いため、これまでの既習事項を振り返り、知識・技能を活用できるようにする。 ・データからどのようなことが読み取ることができるのか、考える力が乏しい。実際の露頭や気象データを使いながら、どんなことを読み取れるのかを考えさせるような授業を行う必要がある。

宇都宮市立宮の原中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、良いところがあると思いますか」の質問に、肯定的な回答した生徒の割合は44.3%で、県平均より4.8%、全国平均より8.3%上回っている。今後も、自己を肯定的に捉え、活力ある行動・考え方が深まっていくように指導・支援していきたい。

●「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に、96.2%の生徒が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の回答となった。県平均より1.4%全国平均より0.2%下回っている。今後もいじめ根絶に向けて学校生活全般で指導を行い、家庭への周知を図り、100%を目指していきたい。

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に、肯定的な回答をした生徒の割合は87.2%、県平均より3.1%、全国平均より4.3%上回っている。今後も教職員一丸となって充実した学校生活を送れるよう、良い学校づくりに取り組んでいきたい。また、「当てはまらない」と回答している4.3%の生徒に対する支援を行っていきたい。

○「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の質問に、肯定的な回答をした生徒の割合は87.6%となった。これは県平均より7.4%、全国平均より10.7%上回っている。これは授業や道徳で取り入れている「学びあい」や「教えあう」活動等を通して、いろいろな意見に耳を傾けながら自分との違いや、相手の考え方を尊重する活動を取り入れている結果だと思われる。今後も様々な場面で友人の考え方を尊重しつつ、自分の意見を明確にしてい活動を継続していきたい。

○「友達と協力するのは楽しいと思いますか」の質問で「当てはまる」と回答した生徒は83.5%で県平均より12.2%、全国平均より17.7%上回っている。入学してからコロナ禍でいろいろな活動が制限されていたが、昨年度から少しずつ学校行事や部活動等を仲間と協力団結して活動に取り組んだことや上記の「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の質問の肯定的割合が多いように、日々の授業の中で協力し学び合っていることが大きいのではないかと考える。今後も、学校生活全般で協力していくことの楽しさを感じられるようにしていきたい。

○「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」の質問に「3時間より少ない」と回答した生徒の割合は38.0%で県平均より8.3%、全国平均より12.3%上回っている。また、「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)」の質問も同様に「3時間より少ない」と回答した生徒の割合は43.4%で県平均より4.6%、全国平均より8.6%高い。携帯電話やスマートフォン等の使用については折に触れて話をし、保護者会等でも啓発活動に努めたい。今後も啓発活動を継続していきたい。

●「学校で、学級の生徒と意見を交換する場で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」の質問に「月1回未満」と回答した生徒が49.0%で県平均、全国平均より約21%多い。1人1台端末の活用が始まり、授業中の調べ学習やまとめ等で使用する機会は多くなっているが、今後は、1人1台端末で、生徒どうしの意見交換が活発に行われるような場面を多く取り入れていきたい。

●「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の質問について「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合は26.2%で、県平均の41.6%、全国平均の40.0%を大きく下回っている。地域と結びつきながら、身近な地域の行事に参加している意識が低い結果が読み取れる。コロナ禍ではあるが、地域協議会や地域学校園及び地元自治会の協力を得て、生徒と地域が関わりあえる活動があれば、発信していく。

宇都宮市立宮の原中学校（第3学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・授業のねらいの明確化 ・学業指導の充実 ・家庭学習の習慣化	・ねらいの提示と振り返りを行う。 ・5分前着席や態度の指導を行う。 ・課題の提出を徹底させる。	・ねらいの提示と振り返りはおおむね徹底できてい る。 ・5分前着席はおおむね徹底できている。 ・家庭学習は毎日自主学習ノートを提出させること でおおむね徹底されている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・おおむね全国平均を上回っているが、ICTの活用に課題がある。	・1人1台端末を活用した授 業の実践を図る。	・授業中の積極的な活用 ・実施事例研修会の開催